

令和 7 年度

「運営に関する計画」

【目標設定】

大阪市立十三小学校

令和 7 年 4 月

大阪市内十三小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

<現状>

いじめアンケートや情報共有の会議を定期的実施し実態把握を行うと共に、発達段階に応じた丁寧な指導を保護者や関係外部機関との連携し継続的に行っている。また、道徳科をはじめ様々な学習場面でいじめや暴力の問題を取り上げ、互いを思いやり尊重し合うことの大切さを意識させている。その結果、いじめや暴力行為の解消、それらに起因する不登校の解消に成果が表れている。更に日々の声掛けや月 2 回の月目標を提示したり、縦割り班活動や異学年交流、自然体験学習等の学習活動を工夫して実施したりしたことで、児童の規範意識や自己肯定感に向上が見られる。

また、特別支援学級との細やかな連携により、児童の実態に合った学習活動を行い基礎基本が定着してきている。各教科、領域で感染症対策に留意して会話だけでなく記述や 1 人 1 台学習者用端末を活用したオンラインでの交流などの言語活動の充実を図った結果、児童の学習意欲は着実に向上している。体力面では、出前授業の積極的活用等により運動意欲の向上を図ることができた。また、運動チャレンジ週間等の全校的な取り組みを実施したり、姿勢や睡眠に関する指導を積極的行ったりした結果、児童の運動や健康に対する意識が高まり、体力も向上している。

週 1 回ゆとりの日を設定し、教職員の働き方改革に対する意識の向上を図ると共に、ICT を活用した職務の効率化を図っている。

<課題>

児童のいじめや暴力行為、不登校に対して、教職員間の情報共有の体制を確立すると共に、関係機関と連携を継続強化していく必要がある。併せて、学校ホームページ等の情報発信を積極的に行い、保護者・地域との連携を更に強めていくことによって、一層のスピード間をもって問題解決にあたる体制を構築していく。更に、道徳科を中心として、高い規範意識や自尊感情を育むとともに、互いに認め合い高め合うより良い集団づくりができる活動の場を充実させることも重要である。

また、体験的・協働的な学習活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びとつなげることで、総合的な言語活動を通した読解力の向上に努めると共に、一層 ICT 機器の活用を進め「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて学習活動を充実させることで、児童の更なる学力の向上を図っていく必要がある。また、運動に関わっては、更なる体育科指導の充実に加えて、運動週間等の取り組みを継続すると共に、児童が楽しみながら体を動かせる機会を増やしていかなければならない。

教職員の働き方改革については、校務支援 ICT を積極的に活用して、より有効な職務の効率化を図っていくこととともに、「学年団」構想を推し進めることで、教職員の校務の負担を軽減していくとともに、教職員の意識改革を行っていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。
- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和4年度より4ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度のポイントを上回るようにする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。
- デジタル教材を活用した朝学習を週1回以上実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。
- 「定時の日」を月に1回設定・実施する。

(様式 2)

大阪市内 十三小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。 ○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 80% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 児童の互いに認め合う態度を育て、いじめや暴力は絶対に許されない文化を学校に醸成する。 (1-1 いじめへの対応) 指標 年度末の児童アンケート「学校のきまりを守っている」に対する肯定的回答について 90% 以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】 子どもの心に響き、自他の意見を認め合う道徳科の学習を進めることで、自分や他者の考えを大切にしようとする意識を高める。 (2-1 道徳教育の推進) 指標 年度末の児童アンケート「道徳科の学習で、話し合うことは楽しい」に対する肯定的回答を 75% 以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 体験的な学習に意味合いを持たせ、より深い学びにつなげることで、自己肯定感を高める。 (2-2 キャリア教育の充実) 指標 体験的な学習を効果的に行い、年度末の児童アンケート「体験学習では、新しいことや、知らなかったことを勉強できた」に対する肯定的回答を 95% 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立 十三小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を上回るようにする。 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて学習活動を充実させることで、児童の学力の向上を図る。 (4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実))	
指標 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を上回る。	
取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】 運動に親しみ、楽しみながら体を動かそうとする意欲を高める。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)	
指標 年度末の児童アンケート「体を動かすことは楽しい」に対する肯定的回答を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市内 十三小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上になるようにする。 ○デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回以上実施する。 ○ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 85% 以上にする。 ○「定時の日」を月に 1 回設定・実施する。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容⑥【基本的な方向 6、教育 DX の推進】 ICT 機器の活用を進めるとともに、学習者用端末を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びとなる学習につなげていく。 (4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成)) 指標 年度末の児童アンケート「タブレットやパソコンを使うことで、進んで学習に取り組むことができる。」に対して、肯定的回答をする児童の割合を 90% 以上にする。	
取組内容⑦【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 校務支援 ICT を積極的に活用し、校務の削減を行う。 (7-1 働き方改革の推進) 指標 「学校園における働き方改革推進プラン」の基準 1 を満たす教員の割合を 85% 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三小学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】
年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】
年度目標【学びを支える教育環境の充実】

3 今後の学校園の運営についての意見

--